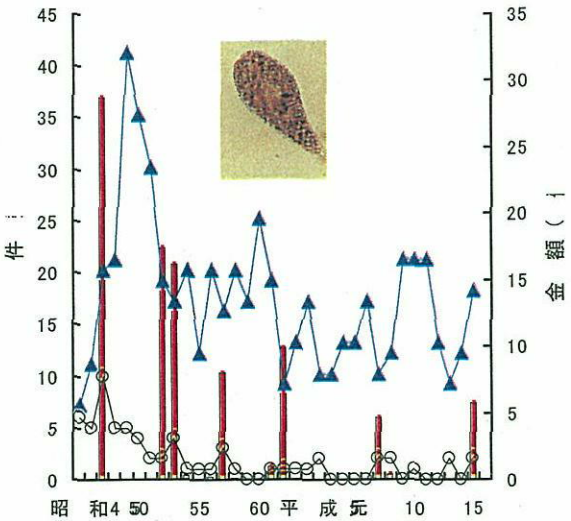
2　香川県におけるハマチ養殖の歴史と変遷

昭和３年、引田村（現在の香川県東かがわ市引田）在住の野網和三郎は、安戸池でハマチの餌付けに成功しました。これが**日本初のハマチ養殖**であり、海産魚類養殖の礎となるものです。安戸池は播磨灘に面した海水池で、水門を網で仕切って養殖が行われましたが、その後県内では入江を堤で仕切ったり、湾内に支柱を立て金網で囲うなどして養殖が拡大されたものの、多額の施設費を要するなどの欠点がありました。そこで簡便で施設費が安い小割生簀式養殖が昭和30年代後半に開発され、40年代に普及してから経営体は急増しました。これまで、47年を初めとする大規模な赤潮被害、全国的な生産過剰による価格の暴落、輸入水産物との競合、さらには産地間競争がますます激しさを増す中においても、ハマチ養殖業は香川県の基幹産業であることにかわりはありません。あわせて、赤潮に強い魚としてマダイ養殖が昭和50年代から本格導入されましたが、ハマチ同様全国的な生産過剰となり、近年は、カンパチ、ヒラメ、トラフグ、スズキなど多品種が養殖されるに至っています。

元号		できごと
昭和	2(1927)	野網和三郎が、区画漁業権の免許を受けた安戸池で、定置網に入ったハマチ、カンパチ、アジ、マダイ等の稚魚の飼育に着手
	8(1933)	直島でハマチ養殖が始まる
	26(1951)	安戸池でハマチ養殖再開
	34(1959)	支柱式金網仕切り養殖開始　以後県下約20ヶ所で養殖場が造成される
	35(1960)	小割生簀によるハマチ養殖が成功し、以後徐々に県下へ普及
	47(1972)	播磨灘、備讃瀬戸東部でシャットネラ赤潮により養殖ハマチが大量へい死　以後52・53と連続発生　小割を曳航・移動し赤潮海域からの避難養殖を開始　57・62も被害
	48(1973)	養殖ハマチの需要が関西から関東に拡大　当年魚養殖から２年魚への移行開始
	51(1976)	ヒラメの種苗生産と養殖を開始
	53(1978)	クロダイ養殖開始　翌年に小割式ヒラメ養殖開始
	55(1980)	養殖尾数で初めて２年魚ハマチが当年魚ハマチを上回る
	58(1983)	全国的な生産過剰により県下の２年魚ハマチ養殖尾数の20%を削減
	60(1985)	引田で赤潮対策のため網の深さ20m余の大型生簀での２年魚ハマチの養殖開始
	62(1987)	２年魚ハマチへのモイストペレット(MP)実用化試験を実施
	63(1988)	赤潮対策のため夏季は毎日給餌から週２回給餌に切り換え
平成	6(1994)	船上型MP造粒機が普及し２年魚ハマチへのMP給餌が定着化
	7(1995)	11月７日に知事が「**県魚**」**としてハマチ**を指定
	12(2000)	知事認定の漁場改善計画に基づいたハマチ養殖への取り組みを開始



香川県における赤潮とその被害発生の推移
（　昭和　４５～ 平成　１　５ 年

▲：赤潮発生
○：漁業被害
■：漁業被害